第２回　10 月 11 日（火）

「スィンディー語（Sindhi）：母なる川インダスが育んだことば」

講師：萬宮 健策　　東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授

スィンディー語と聞いても、日本では、どのあたりで話されているどんな言語かがわかる人はほとんどいないのではないでしょうか。スィンディーという語は、「インド」の語源にもなっており、世界４大文明の１つに数えられるインダス文明が栄えた地域で話されている言語です（ただし、インダス文明との関連は証明されていません）。

スィンディー語は、現代インド・アーリヤ諸語に属する言語の１つで、ヒンディー語やウルドゥー語とは姉妹関係にあたります。英語やドイツ語の遠い親戚にあたります。

パキスタンとインドで対照的な状況にあるスィンディー語の世界をちょっと覗いてみませんか。アラビア文字とデーヴァナーガリー文字が併用され、周辺言語との関係に目を向けると、この言語を取り巻く状況は、社会言語学的にも興味深いものと言えます。

スィンド地方に根ざした民話や詩を基本とする豊富な文学伝統を持ち、また、入破音(implosive sounds)と呼ばれる音や鼻子音(nasal sounds)を多用したり、日本語と同じ開音節終わりである点など、周辺の同系統言語とは少し性格を異にする、知れば知るほど興味をそそられる言語なのです。